

公立幼稚園の学級編成等における最低基準の策定について

《 公立幼稚園のあり方に関する今後の方針について（案） 2（2） 》

現 状

最低基準の定めはなく、原則1人でも希望があれば幼児教育を実施することとしている。
一方で、1学級あたり園児数の上限については、公立幼稚園運営基準により以下のとおりとなっている。

3歳（年少）児	1学級25人まで （ただし、20人を超えた場合は学級編成において配慮）
4・5歳（年中・年長）児	1学級35人まで （ただし、30人を超えた場合は学級編成において配慮）

運営基準により、1学年の園児数から2学級以上の編成、異なる学年の園児を複式学級として1学級とする等の編成を行っている。

【令和6年度】

5月1日時点

	年少児			年中児			年長児			計			学級数
	男児	女児		男児	女児		男児	女児		男児	女児		
飯田幼	1	1	2	4	5	9	2	5	7	7	11	18	2
園田幼	4	6	10	4	5	9	12	9	21	20	20	40	4
森幼	3	4	7	3	11	14	16	9	25	22	24	46	4
計	8	11	19	11	21	32	30	23	53	49	55	104	10

飯田幼稚園 年少・年中（複式）1学級（年少2人・年中9人 計11人）
園田幼稚園 年長2学級（年長①11人・年長②10人 計21人）
森幼稚園 年長2学級（年長①13人・年長②12人 計25人）

- * 1学級の最多園児数は森幼稚園年中児の14人、最少園児数は飯田幼稚園年長児及び森幼稚園年少児の7人となっている。
- * 1学級あたりの平均児童数は10.4人。県西部地域の1学級あたりの平均児童数は15.9人となっており、西部地域の中でも最少となっている。（令和6年度学校基本調査速報値より）

【令和5年度】

5月1日時点

	年少児			年中児			年長児			計			学級数
	男児	女児		男児	女児		男児	女児		男児	女児		
飯田幼	4	5	9	2	5	7	4	4	8	10	14	24	3
園田幼	2	3	5	8	9	17	7	8	15	17	20	37	3
一宮幼	2	2	4	2	0	2	3	2	5	7	4	11	2
森幼	3	10	13	13	9	22	11	9	20	27	28	55	3
天方幼	0	1	1	1	0	1	1	2	3	2	3	5	1
計	11	21	32	26	23	49	26	25	51	63	69	132	12

一宮幼稚園 年中・年長（複式）1学級（年中2人・年長5人 計7人）
天方幼稚園 年少・年中・年長（複々式）1学級（年少1人・年中1人・年長3人 計5人）

- * 1学級の最多園児数は森幼稚園年中児の22人、最少園児数は天方幼稚園年少・中・年長児の複々式学級で5人となっている。
- * 1学級あたりの平均児童数は11.0人。県西部地域の1学級あたりの平均児童数は16.7人となっており、西部地域の中でも最少となっている。（令和5年度学校基本調査より）

令和3年度以降、1学級の児童数が学級編成の上限数を超えることなく、また園児数20人以上の学級も限られた幼稚園のみとなっている。また、1学級あたりの園児数が10人～程度の学級が多く、上限の園児数よりも余裕を持った学級編成となっていることから、現状でも、ひとりひとりの児童を丁寧にみることができ、「個に応じた支援」も十分に可能と思われる。

方 針

最低基準の策定にあたっては以下の方針に基づき検討することとする。

- 幼児の発達状況に応じた、丁寧かつきめ細かな教育・保育を引き続き提供するとともに、一定規模の集団を形成することにより、相互に影響しあい、ひとりひとりが発達に沿った必要な経験が得られる環境を整えること。
- 極端に少ない園児数での学級編成になることは、幼児期の発達にとって良い面ばかりでないことを踏まえ、集団としてグループ活動が行える人数を確保すること。
- 異年齢保育の特長を理解しつつも、複式学級等は望ましくないことから原則として学年単独で学級編成できる規模とすること。

【第2回検討会での意見】

- ・10人弱くらいだと、ほどよくちょうどいい。気分によって遊ぶ相手を変えられる。
- ・人数が多すぎないことによって、上の学年や下の学年とも交流ができる。それでも1学級10人前後が望ましい。
- ・子どもの1年は大きいので、同じ学年にある程度人数がいた方がよい。
- ・子ども同士の相性もあるので、少なすぎるのも良くない。
- ・異年齢同士の関わりも大切だが、発達年齢が同じ子がいるというのは子どもにとっても非常に大きく、同じ年齢の子と遊びたいという思いも持っている。
- ・保育をする上では、学級3人～4人は最低限必要だと思っている。
- ・グループ活動ができる最低人数、最小単位が学年4人程度と考えると、園全体で12人の集団となるが人数は検討の余地がある。ただし、学級に1人や2人だとやはりグループ活動としては厳しいところがある。
- ・なるべく少ない人数でもやっていける規模が望ましいと感じた。
- ・学級の最低基準を決めるのは難しいが、教師が温かく見守り、園児が信頼を寄せることができる数であれば良いと思う。
- ・3年間学級を固定せずに毎年編成ができる人数にするのが望ましく、学年によって担任が変わることも望まれる。
- ・人数が少ないことによって、先生達のフットワークが軽いと感ずる。
- ・少人数保育は子どもを真ん中にして保育を考えられるのが良いところ。
- ・最低基準を決めることが、入園を躊躇する材料にならないか不安に感ずる。
- ・学年単学級の方が複数学級よりも子どもの様子によって活動を変えられるといった良さがある。学級数が増えると身動きが取りづらくなってしまふ。
- ・複式学級は発達段階が異なるため難しい部分が多く、少人数だと保護者、先生と1対1になってしまう。
- ・特別支援との関わりについてもしっかりと考えていく必要がある。最低基準があっても構成する児童によって変わってくるため、支援児童の受け皿としての役割をしっかりと考える必要がある。

- 5人～10人程度であれば発達状況に応じ、丁寧かつきめ細かな教育・保育提供が可能である
- 相互に影響しあい、ひとりひとりが発達に沿った必要な経験が得られる環境として一定規模の集団形成という視点で考えれば10人程度は必要となってくる。
- 森町の現状から最低基準を10人以上とすることは、現実的に難しい。

最低基準の策定

森町公立幼稚園の適正な集団規模として

「1学級5人以上、かつ幼稚園全体で15人以上」を最低基準とし、基準を下回る場合においては今後、休園を検討することとします。